

JOFIOSAKA Vol.21

2008年(平成20年)1月20日発行/発行者 大阪府釣りインストラクター連絡機構

本部:大阪府東大阪市中小阪1-5-20来田方 tel06-6729-9485/fax06-6729-9475/mail:chinunoumi@jeans.ocn.ne.jp



1年を振り返っての総括と平成20年度の抱負

来田仁成 (JOFI大阪代表)



JOFI大阪の皆さん、お元気ですか? いつもご協力ありがとうございます。皆様のご協力のおかげをもって、各地域の釣り教室、釣り場清掃、それに大阪ならではの南港魚釣り園の管理協力、それに北港舞洲の釣り禁止開放に向けての社会実験など、社会的に大きく評価される多大の事業を実施することができました。深く感謝いたします。これらの諸事業は平成20年度も、継続して実施し、全国でも類のない積極的な釣りインストラクター機構として関心の的になっています。

皆様もご承知のように、JOFI活動のあるべき姿とは、さまざまなイベントの開催を通じて、釣り人のモラル向上や、社会的な立場の確立に資し、指導的な役割を果たすことではないかと思われます。平成9年9月に設立されて以来10年余を経過して、その役割の確立は遅々として進捗していませんが、(社)全日本釣り団体協議会発足の昭和46年当時から比べると釣り人の発言の機会は格段のものがあるのではないのでしょうか。もちろん、まだまだ満足すべき位置づけとはいえませんが、これから急速に進展しながらさまざまな機会に、釣り人としての思いを行政や関係各所に向けて発信できるようになるのではないかと考えています。

「よりよい釣りごころを次の世代に引き継ごう」という設立以来根幹となっている精神を、さらに一層引き締まったところで伝え広げる所存です。

さて、釣りを取り巻く自然環境もまた、かなり配慮が進んできたとはいえ、魚の状態を見る限りでは、悪化の一途をたどるばかりです。一昨年、内閣官房都市再生本部から委嘱を受けて行った大阪湾水質調査は、19年度分を現在集計しています。その結果は報告書を作成してみなさんにご報告する予定ですが、20年度もその他の活動とあわせ実施できる目途がついていることをご報告しておきます。

神戸空港、淀川河口新島など人工島造成にともなう、予測しなかった潮流変化や、魚など生物の生態系への影響を、岸边から実際に観測する「大阪湾水質調査」は、広く市民を巻き込むかたちで「大

阪湾の再生」にむけて、さらに大きく伝えていかなければならないと思っています。子供たちが失ってしまった「大阪湾への関心」をどう取り戻すか、そのための諸活動が必要な時期も迫っています。

釣りが大好きだ。だからこそ、釣り競技会と関係なく集まっている。釣りの団体としては誠に奇妙とも思える集団ですが、それだけにわたしたちの主張に耳を傾けてくれる人も増えています。

大阪湾の魚の生息環境に、より深い知識と関心とを持ち、その回復を願うことこそ、わたしたちが長い年月「釣り楽しむという喜び」を享受させてもらったことへの、返礼になるのではないか。その思いがJOFI大阪をこれからも支えてくれることでしょ。

また、こうした動きを全国規模で伝え広げる、そのために苦難の道ではあっても、先頭を切って進まねばならない。そうした張り詰めた思いで皆さんと共にまた一年間を過ごしたいと思います。

小難しい話はきらい、でも釣りは好き、この楽しい釣りの仲間を増やし、後世に伝え残さねばならないという人は多いはず。そうした仲間のために、いま海でなにが起きているのか、川はどうか、そんな研修会も開いていくつもりです。

折に触れて、楽しい善意の仲間の顔を見て、自分が日ごろ感じていることを話し合う。そうした時間は、人生で貴重な瞬間ではないか、このごろ折りに触れてそんなことを思うようになりました。

これまで会員でありながらイベントなどに参加する機会のなかったみなさんにも、ぜひなにかの機会に話を聞かせていただけたら。そうしたチャンスを作るのがわたしの仕事ではないか。そのためのより一層の努力を重ねるつもりです。みなさんにもどうかご協力のほどお願い申し上げます。

報告1 舞洲における環境学習と魚つりの社会実験(9/23,10/14)



9月23日曜日、舞洲は晴れ。第1回目の社会実験はNOP釣り文化協会が主催する「環境学習と釣獲調査」です。潮が動かない日であったことや、イワシがまだ少なく、また漁師が取っていたという状況もあって、当日はあまり釣れませんでした。しかしはじめての「解放に向けた実験」ということで、皆さんがんばっていただきました。ポスター張り、テントの設置、ゴミ拾い、参加者アンケート、通行人へのアンケート、そして、見回り、水質調査デモンストレーション、検量、片付け、釣りしたいへん忙しかったと思います。おかげさまで、シーバス約60cmなど、釣れない中でもそこそこの釣果を出していただき、助かりました。遊びにこられている方へのアンケートでも、釣り場とし

ての解放にほとんどすべてが賛成されていました。環境整備(ゴミ処理)のために管理費をとってもいいから市民に開放してほしいという意見が多かったようです。舞洲全体が大きな釣り公園になることを望んでいますという意見もありました。参加者は、釣り文化協会関係28人、港湾局関係5人、取材関係8人、一般参加92人でした。

10月14日は日、釣振大阪支部主催で同じく社会実験で「ファミリー海釣り大会」をやりましたが、この日はウルメイワシが入れ食いだったのですが、釣れないうわさが流れていたのか、釣り人は少なかったのが残念ですね。この日もJOFIメンバーが水質調査を行い、釣りが「環境を学習するスポーツ」であることを伝えました。 報告:萱間



報告2 大阪湾53PickUp! (9/30)



9月30日はあいにくの雨でしたが、『今年もやるで〜! 大阪湾53ピックアップ(釣り人によるクリーンアップ活動)』を行ないました。

大阪湾3ヶ所での参加者はちょうど 100名(おとな90、こども10)。雨のせいでお子さんの参加が減りましたが、当日に駆けつけてくれた方も多数あります。

JOFI大阪が担当した「南港魚釣り園周辺」では、釣り場よりも釣り場周辺のゴミが問題でしたが、こういうところまで釣り人が掃除をすることで、地域が釣り人を受け入れる体勢を整えることができるのだと思います。

貝塚会場では、従来から淀川で53PickUp!を続けているトップウォーターの仲間が47名も集まり、かなりひどい状態だった波止のそうじをしました。たとえ1日であっても「気持ちいいなあ」と思ってもらえたら、次からは自分のゴミを持ち帰ってもらえる…そういう期待をこめてやっています。

南芦屋浜は見た目きれいな管理された公園ですが、それでも漂着ゴミや風で飛ばされたであろうゴミが浜や石畳の間にたくさん見つかりました。

今回のまとめですが、今回実施したそれぞれの場所は釣り場の「管理状況」がかなり違います。南芦屋浜や、大阪南港釣り公園は公共の施設として、それぞれ管理されている所ですが、やはり利用者のマナーが問われています。釣り人以外の方のゴミが多いというのも特徴でした。また、貝塚のように管理されていない一般の防波堤は、釣り人の品格が問われるぐらいひどい状態だったと思います。定期的に掃除をする釣り人によるボランティア組織の必要性です。これらはすべて、市民と行政が一緒になって継続して行なうべきことだと思います。

報告:萱間

【大阪南港会場】担当JOFI大阪／参加者計29名／この日集めたゴミ=可燃ゴミ10袋、空き缶1袋、ペットボトル1袋、ビン1袋



【南芦屋浜会場】担当WSS／参加者計24名／この日集めたゴミ=釣りエサ釣具のごみ1袋、ナイロン1袋、弁当カス2袋、空き缶2袋、ペットボトル5袋、花火など2袋。ほかに漂着ゴミが6袋(ペット4、他2)



【貝塚人工島】担当トップウォーターチーム／参加者計47名／この日集めたゴミ=釣りエサ釣具関係のごみ10袋、弁当カスごみ20袋、空き缶5袋、ペットボトル10袋、その他不燃ごみ5袋。釣りゴミ、弁当多数。



報告3 今年は台風か？ 親子ふれあい釣り入門教室 (8/19,9/9)



生野区生涯学習推進区民会議主催の4回目「親子ふれあい釣り入門教室」を、座学8月19日、実釣9月9日に、参加者43名、釣りインストラクター（座学13名、実釣15名）で行なった。

今回は以前からやってみたかった淀川でのハゼ釣りにチャレンジしようと、7月29日早朝から東部支部の嶋田氏とママチャリをこいで実釣場所を探しに、毛馬河川公園を皮切りに右岸を阪神電車姫島の下流、さらに左岸を上流長柄まで往復ポイントを見て回った。条件として、50～60人が一同に竿を出せて安全であること、近くにトイレがあること、公共交通の駅が近いこと、一番にまず魚が釣れること。国道2号線すぐ上流に海老江地区河川公園、その前に国交省淀川河川事務所の船着場が、そこそこ釣れている様子。早速、淀川河川事務所福島出張所へ使用許可を受けに区役所の担当者同行。打合せを繰り返し、錠をお借りすることとなった。

8月19日日曜日、座学は内容をハゼ釣りオンリーの講義とし、ルール、マナー安全などの話の後、実釣当日の仕掛け作りをしながら、ハリの結び方他を勉強してもらった。実釣当日を夢見て、1セット、2セットと

仕掛けを作って終る。

9月2日、東部支部5名で試釣（実釣当日の天ぶらのネタ調達）2時間開催で100匹少々釣れた。これならだいじょうぶと皆納得。

さて、9月9日実釣当日の天気のはうは？ 先日座学の注意事項説明の時冗談で「生野の釣り教室はいつも雨絡み、今年は台風かも」と話していたら、本当に台風9号が絡んできたが、2日前に関東方面へ抜けてくれてホッとした。しかし天気予報は午後通り雨予報。

午後1時全員集合、釣り開始。あちらでポツリこちらでポツリ、黄色のライフジャケットが釣れたハゼを手に歓声があがる。試釣の時の様な食いではないが皆魚を確保した。中にはセイゴ10cmぐらいのキビレ、ウナギなど色々釣れた。終了間際に1人の子が大きなボラを掛け頑張ったがあえなくブツリ。

さて今回はハゼの天ぶらを作って食べてもらった。日頃食卓に馴染みのない魚である。各人釣った魚を持ってきてもらい目の前で見事に捌いて見せる。傍らではプロの調理人が前日より用意した材料で天ぶらを揚げて見せる。「おいしい!!」皆一様に大好評であった。



お母さん方も料理の仕方を学んでくれたらう。最後に全員でゴミを片付け、各自持ち帰ってもらった。

市内のこんな近場で色々な魚が釣れる、また食べられる。しかしゴミの多さ、水の汚れに気が付いた参加者もかなりいた。今回の釣り教室で皆さん淀川から色々と教えられたものと思います。

報告:近藤幹雄(東部支部長)

<参加者の感想>

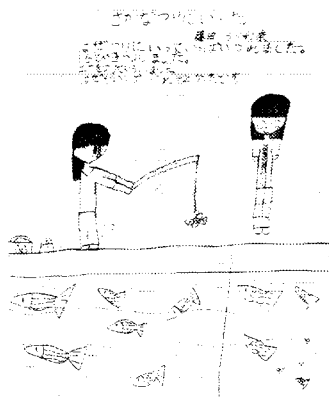
さかなつりにいった。はぜつりにいっていっぱいつれました。16匹きつれました。エサをつけてもらいました。はぜがいっぱいつれてよかったです。(藤田沙利奈)

9月9日、ぼくは2回目のつりにヨド川に行きました。ちょっとあげたらマハゼをつりました。

マハゼという魚をはじめて見ました。さいごにいちばん大きいマハゼをつてうれしかったです。またつりに行きたいです。(河上大輔)

<親子ふれあいつり入門教室に参加させていただいて>

先日は淀川のはぜつりに子どもと参加させていただき、皆様にお世話



になりありがとうございました。一昨年はへらつりに参加させていただき楽しかったですが、去年は子どもの傷病で残念ながら参加できず、今年はとても楽しみにしていました。母子2人初心者で、ハゼの魚のこともよくわからず、また御迷惑をおかけするなあと思いながらの参加でしたが、JOFI大阪のインストラクターの方々に勉強会で説明をうけたり、実際しかけを作っていただいたり、親切に細かく御指導をうけることができました。当日実地も先生方にポイントを教えていただいたり、えさのつけかた、魚のこと、子どももマンツーマン的に御指導いただけた、ほぼ先生のおかげでハゼが16匹もつれて、私達もえさをつけたりもできるようになり、無事持ちかえり家で天ぷらをして全部おいしくいただきました。魚が釣れた満足感もあり、現地でも天ぷらを作ってくださったことも、子ども大よろこびでした。淀川は家庭のゴミのようなものも多いので、インストラクターの方が少し集められただけでもたくさんのゴミが集まりました。ゴミが多くなると水質も悪くなり、魚もいなくなると思います。近所の川のゴミのポイ捨ても結果また淀川等にも集まり、水が汚れるなど子どもは低学年でまだぼんやりとしたわからないことも多いですが、母子で少し話しあいました。魚つりはじめ、魚のこと、水のこと、海川のこと、親子で学び、よい行動は実行していきたい、色々考えるよい機会になりました。本当にありがとうございました。区役所の方や、JOFIのインストラクターの先生方、一緒に参加させていただいたたくさんの方々にお世話になりましたことこの場を借りてお礼申し上げます。(藤田幸代)

報告4 南港魚釣り園における常設の釣り指導活動

今年度4月から12月までの南港魚釣り園におけるインストラクター活動は合計40回で、参加したメンバー数は延べ171人でした。ほぼ毎週日曜日に実施しており、夏～秋には月1回土曜日にルアーの指導も行いました。

魚釣り園自体が潮の辺りが悪くなった影響か、ほかに比べると釣果が落ちるようですが、それでも常連のお客さんもおり、やはり初めての方にも安心して行ける釣り公園施設であるというメリットもあって、私たちが巡回して話しかけると、特に初心者の方が多からでしょう、たいへん有難いと言っています。また、掃除などをしながら歩いているので、皆さんも気を使ってくれているようです。出来るこ

とならもっと釣れる場所に釣り公園を作っていただきたいという気持ちがあるのですが、この場所が釣れなくなって閉鎖されるほうがイ



やですね。

写真は9月30日、53ピックアップと同じ日に開催した「秋のファミリー海釣り大会」の様子です。あいにくの雨で魚も少々でしたが、子供たちは元気に検量に持ってきてくれました。

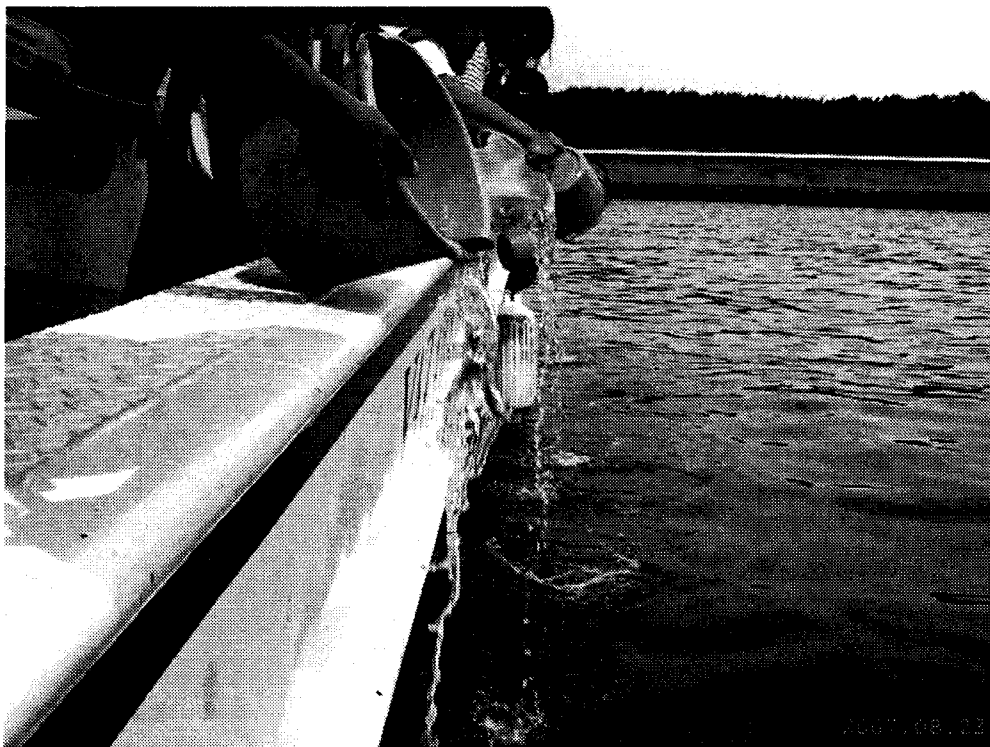
報告:萱間

19年度 大阪湾稚魚放流(8/23)に参加して

8月23日、今月に入って初めての雨、早朝より短時間だったがバケツをひっくり返したような雨だ。今日の稚魚の放流は？ 8時半、会員の栗林氏と共に、稚魚は出発したのだろうか、堺新港でチヌの到着を待つ。定刻に近くに伴い、ヤザワ、マルタカ、タマヤ、ヤマダ等の渡船6隻が順次到着接岸。また行事を主催する日釣振、大釣協の皆さん、報道関係者、ボーイスカウト堺28団の応援参加の12名、JOFIのメンバー4名を含めて総勢50数名。

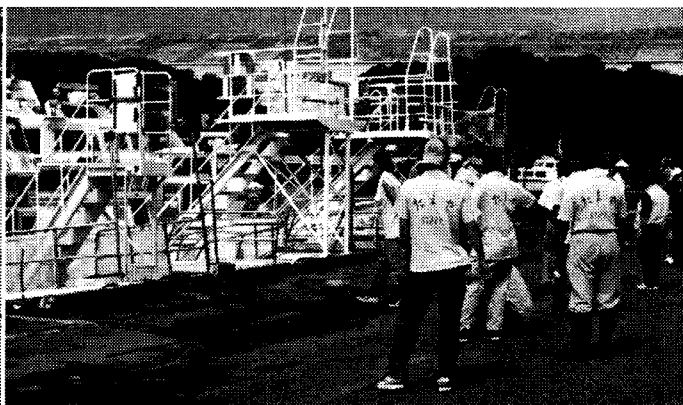
既に外気温33℃の暑さの中、朝の豪雨で混雑したとかで、チヌの幼魚は30分遅れで到着したが、状態が心配だ。挨拶もそこそこに早速放流船の水槽に移送する。今年の稚魚は体長4cm前後と少し小さいようで、その上この暑さと長時間の旅の疲れか元気がない！早急に放流すべく、各船順次急いで出航する。

堺港の入口付近の新日鉄岸壁近くで停船して、各船放流開始、ボーイスカウトのみんなも一列に舷側に並んで、手渡しバケツリレーで、次々と稚魚を水温28℃と状況のよくない湾内に放流する。報道陣のカメラ



フラッシュの中、子供たちは歓喜の声をあげながら、楽しそうに放流に夢中で、水槽の稚魚の半分位の放流を終え、水中に散っていく稚魚の健全な生育を祈るように、海面をじーっと見つめていた様子が、印象的であった。残りの稚魚は、各渡船の釣り場近くに放流して、今年のチヌの放流行事も無事終了した。

報告:川村孝二



寝屋川わんぱくスクール釣り教室(9/22)



私も今年で5回目ですので、今年は子供、親にも感想文をお願いしました。その一部を紹介します。

子供の感想

「つりの先生におしえられても、なかなかつれませんでした。でもさいごに大ものをつりました。きんちょうしましたがとても楽しい一日でした。またおしえてください」

「3匹つれて、とてもたのしかったです。さかなつりをしたのはじめてだったけど、とても楽しかったです」

平成19年9月22日、寝屋川わんぱくスクール釣り教室が貝塚人工島で開催されました。当日は天気もよく、海もおだやかで、まだ夏の暑さがいっぱいの日でした。参加人数は保護者、子供で約90名、スクール指導者10名、インストラクター13名でした。人数が多いため、各インストラクターもだいぶ苦勞されたことと思います。当日はまだ夏日で皆暑い中、朝早くよりお手伝いいただき、無事に事故やけがもなく終わらせていただきました。お礼申し上げます。

わんぱくの子供達も、初めての子、2回目とさまざまでしたが、釣り竿を持つことすら初めてで、リールのあつかい方にとまどっていましたが、いざ釣りを始めると、インストラクターの教えをよく守り、各自思いの釣り方をしていました。前半はなかなか釣れなくて、私共インストラクターもどうしていいかなやんでいましたが、魚が釣れだすと「ワー、キャキャ」で大さわぎです。子供達も暑さも何のその、魚釣りに必死でした。「あっちは釣れてるのに」と言う子供や親もいましたが、各インストラクターが「もうじき釣れるで」となだめることもしばしばです。

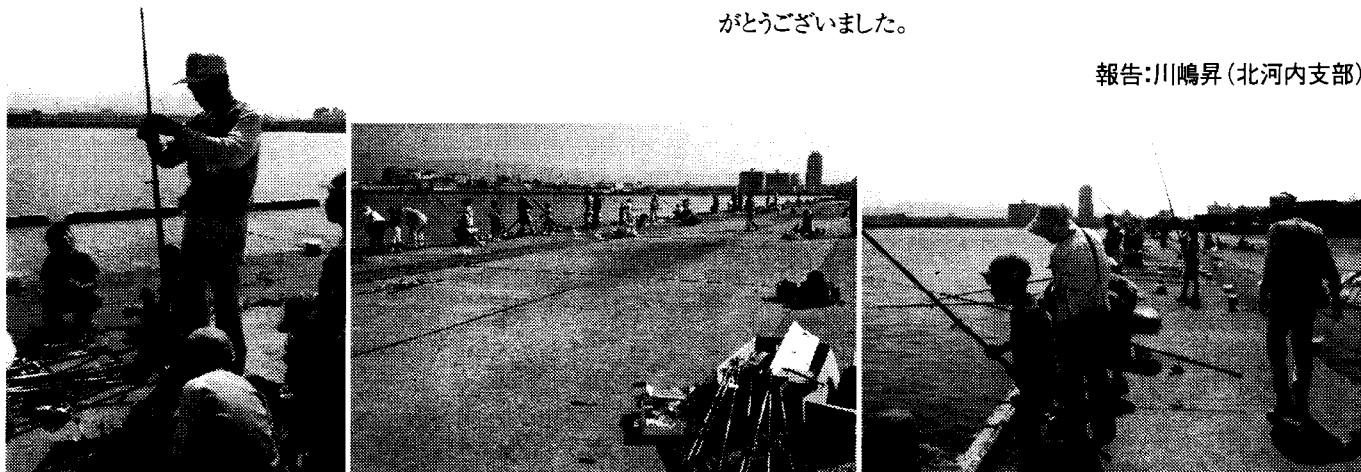
「てんきがよくて、あつかった。さおにつりいとをとおすのがむずかしかった。つりは先生がおしえてくれて、14匹もつれた。また来年もいきたいです」

「さかなつりに行きました。いわしがいっぱいつれました。うれしかったです。このさかなつりがさいごです。でもこの釣りが一番の思い出になりました」

次に保護者の感想です「一人一人釣り竿を貸していただき、ゆっくり釣ることができました。とても楽しい気分でした。各班にインストラクターがついてくれて、ていねいに教えてくださり、14匹も釣りました。ありがとうございました」

このように多くの感想文をいただきました。参加された方は暑かったけど楽しかったとのことでした。生きている魚を見るのも初めて、触るのも初めてという子供達でしたが、元気に釣りを楽しんでくれました。スクール先生や親子さんから、お礼の言葉やまた来年よろしくと言われました。当日お手伝いいただいたインストラクターのみなさま、ありがとうございました。

報告:川嶋昇(北河内支部)



大東市立野崎青少年教育センターファミリー釣り大会(9/9)

9月9日曜日、泉南郡岬町の淡輪漁港にて、25名(8家族)の参加でファミリー釣り大会を開催しました。現地に午後3時頃に到着。釣りインストラクター(大阪府釣りインストラクター連絡機構)のみなさんに釣り道具の用意をお手伝いしていただきました。いつもなら仕掛け作りに時間をとられるのですが、事前に開催した3回の釣り教室の中で覚えていただいていたので準備が早くすみました。

釣り始めからイワシが掛かりだし、4時ごろには入れ食い状態でした。イワシの群れが来たときには、一度に3〜4匹掛かっている人もいました。5時過ぎにはアジも釣れ出し、どの家族も魚が釣れ、大満足。一日釣りを楽しんでいただけたようです。

午後7時の終了の合図で後片付け。インストラクターの方にも手伝っていただき、また釣り場を来たときよりも美しく



して釣り大会を終えました(自然環境を守るため)。インストラクターのみなさんには当日のご指導助言をたくさんいただきました。ほんとうにありがとうございました。

松川正義(大東市立野崎青少年教育センター)

<保護者の感想>

初めて家族で釣りを体験させて頂きました。最初子どもには無理かなあと思っていましたが、子どもが一番イキイキとして大量に釣っていました。とても楽しくあっとゆう間に時間が経ちました。インストラクターの先生方もとても優しく親切な方ばかりで有難いです。／初めて釣りに参加しました。かなり大量に釣れて感動しました。インストラクターの先生やセンターの職員の手助けもしていただき、5歳の弟も連れてきて良かったなあとつくづく感じました。釣った後、頭と内蔵を取る様子を子どもは見ている勉強になったと思います。有難うございます。

矢倉海岸で秋の“大阪湾生き物一斉調査”(11/3)

国土交通省関係の大阪湾環境再生連絡会(事務局:財団法人港湾空間高度化環境研究センター)が主催する「大阪湾生き物一斉調査」の試行調査に、NPO釣り文化協会から川村、楠森、栗林、萱間、瀧川、山口が参加しました。これは平成20年6月21日土曜日に大阪湾の自然海岸5〜10ヶ所で実施予定の「生き物一斉調査」に向けた予行演習ですが、本番では中心となっていた大阪府水産試験場の鍋島先生をはじめ、多くの生物学者の先生方が来られて、調査に向けたいろんなアドバイスや、実際に調査では多くの種類の同定をしていただいたので、たいへん参考になりました。

調査は約2時間、調査道具に釣竿は入っていませんが、私たちは、石をめくったり、穴を掘ったり、網ですくったりは得意です。魚類ではマハゼ、ミズハゼ、スジハゼを確認。貝類ではマガキ、コウロエンビバリガイ、ホトギスガイ、ヤマトシジミ、イシマキガイなど、カニではケフサイソガニ、チチュウカイミドリガニなど。今まではただのハゼやカニで通していた生き物でも、それぞれに名前があることを教えてもらっただけでたいへん面白かったです。今回実施した場所は淀川河口、神崎



川側の「矢倉干潟」です。神戸の地震で隆起した本当に小さな干潟ですが、そんな場所でも浅場があればとてもたくさんの生き物が育つのが分かりました。この場所のフィールド調査と保護を行っている西淀自然文化協会の村瀬りいご委員は、実は生き物が大好きで、釣りも大好きな方です。釣り人も釣るだけじゃなくこういう活動も必要だなと思います。

さて、本番の春の一斉調査では、私たちJOFIの釣り人は、その調査場所の水質調査をしてほしいというご依頼があります。住んでいる生き物も探して、塩分濃度やphなどを調べるのですから、けっこう重要な役が与えられたので、皆さんよろしくお願いします。

報告:萱間



報告9 日本ボーイスカウト“釣り章考査会”(9/24)

今年度も9月24日に、「日本ボーイスカウト大阪連盟なにわ地区釣り章考査会」の応援を行いました。毎年継続して応援してくれるインストラクターが多く、それぞれが自分の持ち場を十分にこなし、主催責任者から信頼をいただいて10年以上の長期活動になっています。

当日12名が開催会場である「岬町立淡輪公民館」に集合し、決められたカリキュラムをこなしていきました。この考査会は通常の釣り教室とは違い、終了後に筆記及び実技テストが行われるので講師も受講生も大変です。

“釣り章”の目的は、主催者責任者の有本隆司スカウト委員長からの礼状にも書かれていましたが、6項目の細目から出来ており、それがカリキュラム構成とマッチングしており、非常に釣り教室としては優れたものです。平成16年に亡くなられた大阪南西支部の柴崎隆氏が考案され、現在までそのまま使用されています。また、礼状には今後も継続実施していきたいとの言葉もあり、インストラクター皆様の支援活動をお願いします。

報告:物部胤三

報告10 バリアフリー釣り大会(10/20)



10月20日、みらいず主催、JOFI大阪協力で、障害者の方30名、ヘルパー45名、研修生6名、みらいずサポーター10名、JOFIインストラクター10名、総勢101名の人数で、淡輪ヨットハーバーで「バリアフリー

釣り大会」が開催されました。JOFI大阪から物部、川村、塩見、川嶋、奥野、日高、酒井、久保インストラクターで協力。



当日は晴天に恵まれ、サビキ釣りをメインに、胴突き、ズボ、ルアー、浮き、たこテンヤ釣りのグループに分かれて釣りをしました。障害者の子も目を輝かせながら夢中で釣りを楽しみ、ヘルパー人も助け合いながら一緒に頑張っておられました。皆さん頑張ってアジ、ベラ、ガシラ、タコなど釣り、また釣り上げたアジをフライにして美味しくいただいたりして、大変喜んでいました。障害にも負けずに頑張っている姿は、私たちの励みにもなり、来年もここにきて彼らの喜ぶ顔をまた見たいと思います。バリアフリーも7回目、これからも協力して、長く続くようにしていきたいと思っています。

報告:房野功治(泉州泉南支部)

報告II 大阪湾見守りネット研修会(11/7)に参加して

11月17日午前10時、快晴の大阪湾に帆船「あこがれ」が心地よく出帆した。“ほっといたらあかんやん!大阪湾”を合言葉に集うグループ「大阪湾見守りネット」メンバーの48人が、大阪湾再生について、海上から観察し語り合おうと集まった。JOFIから高木事業部長、萱間、山崎、安達、川村の5名が参加し、水質調査の経験を披露してJOFIの活動の一端をアピールする。

時速7ノットのゆっくりした走行で、神戸須磨沖までの往復の船旅だが、洋上でのセイル張り体験や船内探検は楽しい体験であった。また、航行中は「大阪湾の歴史」や「漂流ゴミによる大阪湾の潮流調査」講義、神戸沖で採取したプランクトンの「顕微鏡による観察」などの座学、さらにオズ岸壁、尼崎沖及び須磨沖の3箇所で停船して、プランクトン採取、潮流観測用のブイ投入と追跡や水質調査を興味深く体験して、のんびりした航海の、結構忙しい快適な一日の体験であった。

なお水質調査の折に、JOFI自作の塩分濃度計と大阪府水産試

験所の正規の濃度計との誤差の有無をチェックしたが、まったく問題がなかったことと、さらに、海水の塩分濃度の呼称は、パーセントではなく、千分率で表したパーミルを使い、その表示は「‰」で、私達が今まで使っていた「塩分濃度2.8%」は、専門的呼称は「28パーミル」で「28‰」と表示することを覚えたことが、個人的なことではあるが、よかったと思う。

報告:川村孝二(堺南河内支部)



報告12 渚探検隊 (11/4)

11月4日(日)、岬町の海洋センターにおいて、大阪府立青少年活動財団主催の「海洋センター渚探検隊」が開催された。海を観察しながら四季折々の海を楽しもうと催されているなか、秋の行事の一環として魚釣りが加えられ好評だそうです。

JOFI大阪泉州泉南支部、房野、高瀬が昨年に続いて指導を受け持つこととなった。31家族、親子合わせて96名の参加で3班に分かれ、ひとつの班が白鳥号による海洋の観察、他の2班が桟橋での魚釣り、2時間のローテーションで10時にスタート。房野、高瀬により、浮き釣り、サビキ釣りの仕掛け組み立て、釣り方、注意、また危険な魚などの説明講義、タックルの準備の後、いよいよ10時30分実釣開始となった。

低学年の子供は、自然竹、セルウキ、シラスによるウキ釣り、高学年および父兄は例のごとくサビキ釣りである。7割以上の人が釣りが初めてにもかかわらず、タナの合わせ方を教えると、なんとなく入れ食

い状態となった。子供たちの笑顔、お母さんおとうさん方の歓声、桟橋はまるでお祭り騒ぎ。

その間に、前日に職員リーダーたちによって釣り置きされたアジが大学生の女性スタッフにより捌かれ、から揚げ、フライにされ、参加者に配られた。あまりの美味さに釣れたばかりのアジを、これも皆さんにと差し出されるお母さん方も出るほどだ。

2時間が過ぎ、ローテーションによりメンバーが変わった頃からアジの食いが悪くなったが、それでも桟橋の両端では釣れ続き、4時半の終了を迎えた。閉会式の前にアジの骨煎餅が配られ、これにも行列ができるほど好評で無事終了した。閉会式の後、房野支部長や私のところへ多くの子供たち、父兄の方々がお礼に見えられ感激、感謝の言葉を頂きました。インストラクター活動の喜びを新たにしたい一日でした。

報告：高瀬諒(泉州泉南支部)



報告13 親子ふれあい釣大会／やはたフィッシングスクール／和束町つり教室

JOFI大阪・京都南支部では、平成19年度つり教室を以下のとおり開催しています。

名称：美濃山小 親子ふれあい釣大会
主催者：京都府八幡市美濃山小学校

PTA／美濃山小学校／美

濃山地区自治連合会

開催日：19年3月24日、4月1・7・

8日

参加者：延べ154名

場所：美濃山御幸谷貯水池

対象魚：へなぶな、こい

指導内容：つり講座、つり実

技、指導員延30名

名称：やはたフィッシングスクール

主催者：京都府八幡市教育委員会

参加者：47名

場所：八幡第三小学校 志水池 こい

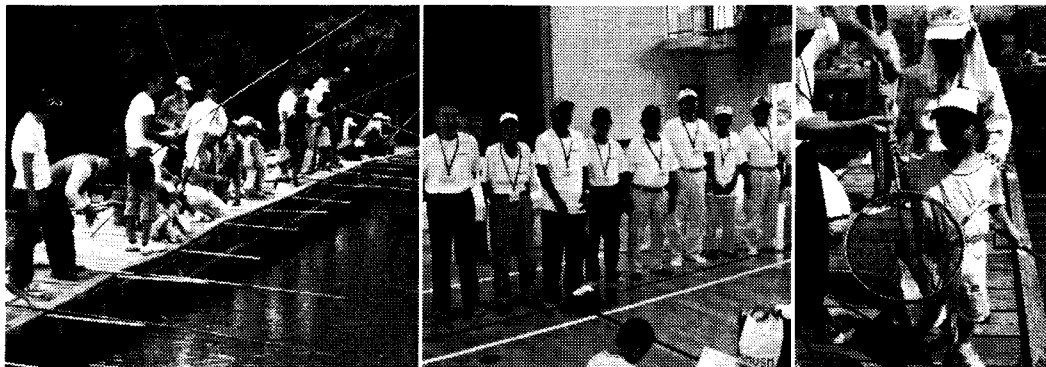
指導内容：つり講座、つり実技、指導員11名

名称：和束町つり教室

主催者：京都府山城郡和束町教育委員会

(渓流にて開催予定、後日報告します)

八幡市・吉川幾久雄



JOFI大阪 今年度の活動予定 (ご協力よろしくお願いします)

<新しい行事>

● 大阪湾再生連絡会で「大阪湾の生き物一斉調査(6/21予定)」を行ないます。大阪湾で5～6箇所、大阪湾で市民活動を行っているグループが集まって、市民に広く呼びかけながら、河口部や浜でいっせいに生き物調査をすることになりました。JOFIメンバーは各地で生き物の採取・同定、および水質調査を行う予定です。

● 「大阪湾のチヌ行動調査」および「舞洲のフィールド調査」を予定しています。東京海洋大学の依頼でクロダイの行動調査をする予定があります。また、同時期に舞洲等の埋立地において釣りを含めた市民の場所として開放するための調査を行

なう時期となっており今年度は5回程度行なう予定です。その2つの事業を、同時期にすることになりそうです。

<継続する行事>

● 南港魚つり園におけるインストラクター活動(毎日曜日、土曜日臨時開催、釣り大会開催)

● 大阪湾の水質調査活動と水質調査講習会(夏休みジュニア講習会も含みます)

● その他、本部が主催する研修会、他団体との協力事業、および各支部が協力する地域のインストラクター活動

ご案内

「平成20年度定例総会」

2月17日曜日、「第22回JOFI大阪総会(平成20年度)」を開催します。場所はダイワロイヤルネットHL四ツ橋、時間は12時～13時。13時15分～懇親会、15時15分～役員会の予定。

「(平成19年)大阪湾の水質調査 報告会」

2月17日曜日、ダイワロイヤルネットHL四ツ橋にて、NPO

釣り文化協会主催「平成19年釣り人が見た大阪湾の水質調査報告会」を行います。JOFI大阪のメンバーが中心になって始めた大阪湾の水質調査は今回で3年目の結果を発表することになります。JOFIメンバー以外で新しく始められた方も多いため、この報告会を通じて、実際の大阪湾がどのような状態になっているのか調査員同士で情報を共有するとともに、この結果を関係組織や行政機関にお知らせすることが目的です。湾奥部や水路などは、市民や釣り人だから実施できた貴重なデータと言えます。ぜひご出席ください。

インストラクター募集中!!

公認釣りインストラクター資格をお持ちの方、またはこれから取得して、釣りの指導や楽しみながら行う社会貢献活動に参加しようと思っている方は、ぜひ本会にご入会ください。礼節のある「釣り」が広がることによって、環境が保全され、安全が確保され、そして何より生き生きとした人生を楽しむことが出来るようにしたいと思っています。また、釣りインストラクターの活動は一人では出来ないものです。ぜひ本会の仲間と活動をとものにしませんか? ご連絡お待ちしております。

(JOFI大阪本部:大阪府東大阪市中小阪1-5-20来田仁成方tel06-6729-9485/fax06-6729-9475)

釣り界の新しい動きは、こちらをご覧ください。

<http://www.zenturi-jofi.or.jp>

(社)全日本釣団体協議会のホームページです。外来魚問題や沿岸の釣りなど、釣り行政の動きを日々捕らえて全釣協としての姿勢、釣り人としての対応等についてまとめています。

大阪湾の水質調査や釣り人ボランティアの動きについては、こちらご覧下さい。

<http://www.turibunka.or.jp>

